

第5次総合計画 中期戦略事業プラン 事務事業評価シート

事業名	通級指導教室推進事業			事業番号	09-105
事務事業担当	部名	部長名	課名	課等の長	
	教育部学校教育担当	石渡 誠一	教育指導課教育センター	須永 尚世	

計 画 (Plan)					
総合計画体系	暮らし力	まちづくり目標	1	誰もが明るく暮らせるまち	
		基本政策	3	人がつながり未来を拓く学び合うまちづくり	
		施策展開の方向	5	子どもの生きる力をはぐくむまちをつくる	
		施策	9	きめ細やかな教育の推進	
予算事業名	通級指導教室推進事業費				
事務区分〔選択〕	☒ 自治事務 ☐ 法定受託事務 (選択してください)→			法令上の位置づけ	実施する規定はない
事業開始年度	開始年度	平成2年度 ~		終了年度	
関連法令等	学校教育法施行規則第140条及び第141条				
国・県の計画等	教育振興基本計画(第2期計画)			計画期間	平成25年度～平成29年度
関連個別計画	伊勢原市第2期教育基本計画			計画期間	平成30年度～令和4年度
実施の背景 (事業を取りまく環境・市民ニーズ)	小学校の通常の学級に在籍する児童で、主に発達障害のある児童や言語障害のある児童の学びの場の1つとして通級による指導が有効です。また、通級による指導の効果が認められ、指導に対する理解が深まるにつれて、入級を希望する児童や保護者が増加しています。				
目 的 (何をどうしたいのか)	通級指導教室「まなびの教室」「ことばの教室」を設置することで、集団への適応や言葉の発達に課題のある児童の特性に応じた指導を行う支援体制の充実に取り組みます。				
主な対象 (誰・何を対象に)	通常の学級に在籍する児童で、通級による指導が必要な児童。				
事業内容 (手段、手法など)	「まなびの教室」「ことばの教室」を設置し、教室環境の整備や教材・教具、図書の充実を図ります。 「まなびの教室」を拡充し、待機することなく指導が受けられるように受入体制を強化します。 支援を必要とする児童へのよりよい指導のために教職員の研修の充実を図ります。				
事業行程	項目	年度			
		平成30年度	令和元年度	令和2年度	
	「まなびの教室」の設置	1校3教室	1校3教室	2校4教室	
	「ことばの教室」の設置	1校2教室	1校2教室	1校2教室	
目 標	【指標名】	【現状値】	年度		
			平成30年度	令和元年度	令和2年度
	「まなびの教室」の受け入れ児童数	29人 (平成28年度)	35人	35人	43人



事業実施 (Do)

事業実施 (D○)

事業の「取組方針」 (前年度事務事業評価)	「まなびの教室」については、2校目の設置と運営について検討し、個別に支援が必要な児童生徒への早期対応に努めます。				
実施方法 〔選択・記入〕	☒ すべて直接実施 ☐ 左記以外				
	☐ 業務委託	☐ 指定管理	委託先又は指定管理者		
	☐ 補助金		補助先		
	☐ その他		具体的内容		
実施結果	項目	年度			
		平成30年度	令和元年度	令和2年度	
	「まなびの教室」の設置	1校3教室	1校3教室		
	「ことばの教室」の設置	1校2教室	1校2教室		
実施した取組の内容	指導教員や指導主事との連携により、「まなびの教室」や「ことばの教室」に通級する児童、保護者や児童が在籍する学校を支援することができました。				
目標の達成状況	【指標名】	【現状値】	年度		
			平成30年度	令和元年度	令和2年度
	「まなびの教室」の受け入れ児童数	29人 (平成28年度)	35人	34人	

コスト	年度		平成30年度 実績				令和元年度 実績				令和2年度 実績				
	事業費合計 (a)		403		千円	317		千円	0		千円				
	内訳	国県支出金 ①	0		千円	0		千円	0		千円				
		地方債 ②	0		千円	0		千円	0		千円				
		その他特財 ③	0		千円	0		千円	0		千円				
		一般財源 (a)-①-②-③	403		千円	317		千円	0		千円				
	国県支出金の内容														
	その他特財の内容	受益者負担	○ 有 ● 無			前回の改定時期									
		その他													
	人件費	正規職員		0.22	人	1,872	千円	0.22	人	1,914	千円	0	人	0	千円
		その他の職員		0	人	0	千円	0	人	0	千円	0	人	0	千円
		人件費合計 (b)		0.22	人	1,872	千円	0.22	人	1,914	千円	0	人	0	千円
	トータルコスト (a)+(b)		2,275		千円	2,231		千円	0		千円				
	単位当たりコスト	対象数	定義	通級のべ児童数		単位	通級のべ児童数		単位			単位			
			対象数	61		人	58		人						
		総事業費／対象数	37,295		円	38,466		円			円				

評 価 (Check)				
進捗状況 〔選択・記入〕	☒ 計画どおり (A) ☐ 概ね計画どおり (B) ☐ 計画どおり進捗せず (C)	A	左記判断理由	支援を必要としている児童を受け入れることができました。今後はまなびの教室の複数校への設置に向けての課題整理を行い、新たに設置する学校で、まなびの教室が効果的に運営できるよう条件整備を進めていく必要があります。
実施水準 〔選択・記入〕	☐ 他市より高い水準で実施 (A) ☒ 他市と同水準で実施 (B) ☐ 他市より低い水準で実施 (C) ☐ 一律に比較できない事業	B	他都市の事業内容等	近年、近隣市では通級の利便性などから、複数校に通級指導教室を設置したり、対象を中学生に広げたりしています。本市においても、複数校への設置や対象の拡大などについて、検討していく必要があります。
有効性 〔選択・記入〕	☒ 高い (A) ☐ 普通 (B) ☐ 低い (C)	A	左記判断理由	通級指導により、集団行動やコミュニケーション、言葉の理解や表現が苦手な児童が、学校生活に適應することができるようになる等の改善が見られ、学校生活を円滑に送れるようになっています。
効率性 〔選択・記入〕	☒ 効率的に実施されている (A) ☐ 改善の余地がある (B) ☐ 抜本的な改善が必要である (C)	A	左記判断理由	児童の実態を的確に把握し、入退級の審査を行うことにより、多くの児童を受け入れることができました。



取組の改善 (Action) へ

取組内容の改善 (Action)				
所屬長による今後の方向性の判断	方向性 〔選択〕	☐ 現状のまま継続 ☒ 見直しの上継続	事業推進上の課題	「まなびの教室」を増設するにあたり、各学校では特別支援学級の学級数の増加や多様なニーズに対応するための教室の確保等で、通級指導教室増設のための教室の確保が難しいことが課題となっています。
令和2年度取組方針		通級指導教室に通室しやすい環境、該当児童の推移、設置校の教室の確保等、現状と課題について精査します。長寿命化事業計画を踏まえ、通級指導教室の1校配置、複数校配置等、支援を必要とする児童が受け入れられる体制が整えられるように、今後の方向性について検討します。		
所管部長による総評		「まなびの教室」や「ことばの教室」の設置は、通常の学級に在籍する児童で、集団行動やコミュニケーション、言葉の理解や表現が苦手な児童が学校生活に適應することができるよう学ぶ場の1つとして有効です。引き続き教室環境の整備や受入れ体制の充実を図るよう努めてください。		